



開二小だより

Vol.188 第4号
平成30年7月2日発行
練馬区立開進第二小学校
校長 長谷川 修
www.kaishin2-e.nerima-tky.ed.jp

～ 先生の宿題 ～

副校長 白坂 信明

自分が初任の頃、学級担任をしていたとき、「どうしてこの子は書かないのだろう。何を考えているのだろう。やる気が無いだけなのかな。」と思うことがありました。「クラスの他の児童を見て、その児童を見に戻ってきても、授業の時間だけがすぎ、全く進んでおらず…。困ったな。」ということが。

ある研修会に参加した際、講師の先生が突然「では、配られたプリントの裏紙にライオンの絵を描いてください。」と言われました。絵を描くのが苦手な自分は、さてどこからどうやって描こうか、全体を描けばいいのか、首から上くらいを描けばいいのか、戸惑いました。「あと2分で仕上げてください。」時間が無いと感じた焦りは嫌な重たい気持ちになりました。同じ研修会に参加した他の先生方も同じような戸惑いを見せ、周囲でおしゃべりをし始めた先生もいました。そして講師の先生は「はい、そこまでです。どうですか、絵は描けましたか。」と聞かれました。私は心の中で「いえ、全く描けませんでした。」と答えました。

その後、講師の先生は、「子どもは、学校の中で、毎日、何回もこのようなことをやらされているのかもしれない

ね。」とおっしゃいました。子どもは学校に来て、新しい課題に出あったり、見つけたりし、学ぶこと成長していくことを当たり前のように思っていた自分には目から鱗のような言葉でした。

講師の先生は続けて、「先生にやりましょう、とか、書きなさい、と言われても、すぐにやれる子・できる子ばかりではないのですね。そこで、この子には、どんな支援や指導が必要なのかを言ってあげられるのが先生なのではないのでしょうか。小学校の先生は、(教科担任制が少なく)その子との日々の関わり時間が長いから、その子にあった適切なアドバイスができるのでしょうか。先生方、日々の児童理解を頑張ってください。」とおっしゃっていました。

開二小の教職員も、子供たちの様子を見て、今、どこまで声をかければ良いか見極め、支援・指導しています。同じ学年の担任、他学年の担任、専科の教員、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、特別支援教室の巡回教員と連携し、より良い支援・指導ができるように、情報交換をし、組織的に取り組んでいます。

これは、この仕事に携わっているかぎり、私たちが毎日考え続ける宿題です。

おかげさまで90周年記念の航空写真、全校写真、クラス写真の撮影を終えることができました。この写真は90周年記念誌に掲載し、記念誌は、式典当日、全児童と参加者全員に配布致します。ご理解ご協力のほど、宜しくお願いいたします。